

【資料4】

第2回物部川地域アクションプランフォローアップ会議資料

平成28年2月8日

平成28年度物部川地域アクションプランの追加、削除、拡充等（予定項目）について

平成28年度 物部川地域アクションプラン（案）項目対比表

No.	現在(平成27年度)	南国市	香南市	香美市
		13	12	10
1	南国市の園芸主幹品目シントウの再構築	●		
2	還元水を活用した野菜の生産体制の構築とブランド化	●		
3	エメラルドメロンの販売力向上対策		●	
4	ニラの産地力強化「日本一のニラ産地の維持・拡大へ向けた仕組みづくり」		●	●
5	生産から販売までのユズの総合的な産地強化対策			●
6	直販所「あけぼの市」の機能強化による農家の所得向上及び交流人口の拡大	●		
7	地域農産物を活用した直販所「ひかり市」の施設拡充	●		
8	加工品販売による夜須地域の活性化		●	
9	地産地消・食育の推進	●		
				分割
10	「ごめんケンカシャモ」のブランド化の取組	●		
11	民有林における素材の増産	●	●	●
12	木質バイオマスの活用に向けての取組	●	●	●
13	シイラ等の加工商材活用		●	
14	地域の特産品づくり ～農産物加工への取組～	●		
15	香美市ブランドの確立・特産品づくり			●
16	「ごめん」の販わいづくり ～ごめんの活性化～	●		
17	香南市の地場産品販売促進		●	
18	香南市の商業振興への取組		●	
19	地場産業(土佐打刃物、フラフ)の振興			●
20	土佐山田えびす商店街を中心とする地域の活性化			●
21	観光事業から観光産業へ～観光産業の振興～	●		
22	体験観光等の旅行商品化と販売の推進・地域の観光情報の発信		●	
23	「森の駅」を中心とした体験型観光の推進			●
24	広域観光の取組の推進	●	●	●
25	大学生による地域応援団(サポーター)づくり	●	●	●
26	地域産品を活用したヤ・シイパークを核とする地域の活性化		●	

①削除

②削除

南国市	香南市	香美市	No.	改定案(平成28年度)
13	11	8		
●	●		1	ニラの産地力強化「日本一のニラ産地の維持・拡大へ向けた仕組みづくり」
●			2	南国市の園芸主幹品目シントウの振興
●			3	還元水を活用した野菜の生産体制の構築とブランド化
	●		4	エメラルドメロンの販売力向上対策
		●	5	生産から販売までのユズの総合的な産地強化対策
●			6	「なの市」「なのカフェ」の売上拡大による農家所得の向上
●			7	「ごとおち市」の売上拡大による農家所得の向上
●			8	地元野菜の消費拡大による地域農業の活性化
●			9	農園レストランによる地域食材の消費拡大
	●		10	加工品販売による夜須地域の活性化
●			11	「ごめんケンカシャモ」のブランド化の取組
●			12	ヤギミルクの生産体制強化及び流通促進事業
●	●	●	13	民有林における原木の増産
	●		14	シイラ等の加工商材活用
●			15	地域の特産品づくり ～農産物加工への取組～
●			16	海洋堂ファクトリーと連携・連動した「ごめん」の賑わいづくり
	●		17	地域産品を活用したヤ・シイパークを核とする地域の活性化
	●		18	香南市の地場産品販売促進
	●		19	香南市の商業振興への取組
		●	20	香美市における特産品づくりの推進
		●	21	地場産業(土佐打刃物、フラフ)の振興
		●	22	土佐山田えびす商店街を中心とする地域の活性化
●	●	●	23	広域観光の取組の推進
●			24	南国市の地域資源を活用した参加型観光の推進
	●		25	体験観光等の旅行商品化と販売の推進・地域の観光情報の発信
●	●		26	三宝山プロジェクト
		●	27	香美市における滞在型・体験型観光の推進

①追加

拡充

②追加

物部川地域アクションプランの追加・削除・拡充等（予定項目）

■追加

NO.	アクションプラン名	事業概要
1	ヤギミルクの生産体制強化及び流通促進事業（南国市） 【事業主体】川添ヤギ牧場	流通の少ない、ヤギミルクの安定供給を図るため、畜舎の整備等により増産体制を強化する。また、飲料・原料としての商品づくりのほか、県内事業者との連携による新たな加工品の開発により高付加価値化を図り、ヤギミルクを中心とした外商戦略を展開していく。
2	三宝山プロジェクト（香南市） 【事業主体】香南市、民間事業者（予定）	香南市のシンボルである三宝山を観光拠点として整備するとともに、近隣の観光施設等と連携していろいろな楽しみ方ができる体験観光エリアを作ることにより、県内外からの観光客の増加を目指す。

■削除

NO.	アクションプラン名	削除する理由
1	No. 12 木質バイオマスの活用に向けての取組（物部川流域全域） 【事業主体】南国市、香南市、香美市、JA南国市、JA長岡、JA十市、JA土佐香美	園芸用ハウスの加温等で木質ペレットボイラーの導入は進んだが、国の補助制度の見直しにより今後のボイラー導入希望は見込めない。また、地域内にペレット製造施設を建設する計画も実現しなかったことから、現時点では地域独自の取組を進める状況にない。今後は成長戦略の位置づけで支援していく。
2	No. 25 大学生による地域応援団（サポーター）づくり（物部川地域全域） 【事業主体】人と地域の研究所、学生グループ	目標値を大幅に上回る地域と大学生の交流実績が生まれており、既に、地域と学生団体の自主的な活動に育っていることから、自立案件として整理する。

■その他（拡充、分割）

NO.	アクションプラン名	見直しする内容
1	<p>No. 16「ごめん」の賑わいづくり～ごめんの活性化～（南国市）</p> <p>【事業主体】南国市商工会、南国市商工会後免支部、ごめんまちづくり委員会、企業組合ごめんシャモ研究会、ごめん生姜アメ研究会、地産地消ごめんの軽トラ市実行委員会、後免町公民館建設推進部会、高知農業高校</p>	<p>【拡充】「ごめん」の賑わいづくりに向けて、空き店舗の活用やイベントの開催などに取り組んできたが、さらに、今後建設が予定されている海洋堂ファクトリーを核とした中心市街地活性化の取組を追加し、プラン名を「海洋堂ファクトリーと連携・連動した「ごめん」の賑わいづくり」に変更する。</p>
2	<p>No. 9 地産地消・食育の推進(南国市)</p> <p>【事業主体】JA 南国市出資農業生産法人(株)南国スタイル、JA 南国市、JA 長岡、JA 十市、南国市地産地消推進協議会、農家レストランまほろば畑、南国市、(株)ナイフアンドフォークカンパニー</p>	<p>【分割】産振補助金を導入して整備した地産地消型農園レストラン「TRITON（トリトン）」（10月19日オープン）の取組に関して、より詳細な進捗状況を把握し、必要なサポートを行うため、No. 9「地産地消・食育の推進」を「農園レストランによる地域食材の消費拡大」と「地元野菜の消費拡大による地域農業の活性化」に分割する。</p>

有望素材シート（28年度）（案）

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	南国市	素材名	ヤギミルク
		関連素材	

現状・課題	<p><現状></p> <p>「川添ヤギ牧場」は、南国市において平成21年よりヤギの飼育を始め、現在は、ヤギの飼育、ヤギミルクの販売、ヤギの餌となる牧草・飼料米の生産等を行っている。ヤギミルクは、ヨーロッパではスーパーマーケット等で一般的に流通しており、食文化としての地位を確立しているが、日本においてはほとんど流通していない。しかし、低脂肪で消化吸収に優れている等の特徴があり、日本においても今後、近年の健康志向やオーガニック製品を好む客層をターゲットに、差別化された商品開発が期待できる。現在は、ジェラート等の原材料としての販売を行っている。</p> <p>しかし、ヤギは牛の10分の1の乳量しかなく、川添ヤギ牧場の現在の規模では取引先の求める数量を確保できない状況にある。また、販売価格も牛乳より高額となるため、顧客に訴求するための付加価値を付けることが必要である。</p>
	<p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヤギの頭数増加に向けて、畜舎等の整備・規模拡大が必要。 ・日本におけるヤギミルクの市場調査、販路開拓が必要。 ・加工品の開発については、試作は行っているものの製造販売には至っていない。
今後の方向性	<p>今回、新たに畜舎等の整備を行い、ヤギミルクの生産量拡大を図る。同時に、ヤギミルクの市場調査を行い、飲料としての販路開拓を行う。また、ヤギチーズ等の加工品の開発や、観光牧場としての発展も視野に置いている。</p> <p>ヤギの餌となる牧草・飼料米は自家生産のものであるが、今後ヤギの頭数増加にあわせて量の確保が必要となる。そこで、地域の農家に牧草・飼料米の生産組合を組織してもらい、そこから現状よりも高値で買取りをする仕組みを検討している。これにより、農家の所得向上とともに、耕作放棄地の解消が期待できる。</p>

「有望素材」を活かした具体的な取り組み（案）

『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	ヤギミルクの生産体制強化及び流通促進事業
	関係市町村名	南国市

事業の概要	<p>流通の少ない、ヤギミルクの安定供給を図るため、畜舎の整備等により生産体制を強化する。飲料・原料としての商品づくりのほか、県内事業者との連携による新たな加工品の開発により高付加価値化を図り、ヤギミルクを中心とした外商戦略を展開していく。</p>
事業主体等	<p>【事業主体】 川添ヤギ牧場</p> <p>【関係機関】 ひまわり乳業（株）</p>

取組手順	事業実施【H28】	1年後【H29】	2年後【H30】	3年後【H31】	4年後【H32以降】
畜舎等の整備・機能拡充	・畜舎等の整備	・施設の運営			
ヤギミルクの安定供給体制の確立	・ヤギ頭数の増加、ヤギミルク生産量の拡大 ・飼育データの収集・蓄積 ・事業拡大にあわせた組織体制づくり（人材の雇用を含む）				
高級食材としての販路開拓・加工品の取組	・ヤギミルク市場調査 ・成分分析による優位性の検証	・ヤギミルクの販売ルートの確立、商談会等を活用した新規販路開拓		・ヤギミルクを活用した加工品の開発、モニタリング、商品化	

項目	事業実施【H28】	1年後【H29】	2年後【H30】	3年後【H31】	4年後【H32以降】										
売上高	5,400千円	13,500千円	18,000千円	22,500千円	27,000千円										
【設定根拠】	<p>【推計の考え方】</p> <p>①ヤギミルク単価：600円/L ②1頭あたりの搾乳量（年間）：300L ③搾乳可能なヤギの頭数（総数）：</p> <table border="1"> <tr> <td>H28</td> <td>H29</td> <td>H30</td> <td>H31</td> <td>H32～</td> </tr> <tr> <td>30頭(80頭)</td> <td>75(150)</td> <td>100(200)</td> <td>125(250)</td> <td>150(300)</td> </tr> </table> <p>※H29以降は総数のうち1/2を搾乳可能とする。 ⇒ 売上高(ヤギミルク) = ①ヤギミルク単価 × ②1頭あたりの搾乳量 × ③搾乳可能なヤギ頭数 ※会計年度は1月～12月。</p>					H28	H29	H30	H31	H32～	30頭(80頭)	75(150)	100(200)	125(250)	150(300)
H28	H29	H30	H31	H32～											
30頭(80頭)	75(150)	100(200)	125(250)	150(300)											

総事業費	22,000千円	(うち28年度 22,000千円)			
(内訳 国：	県：11,000千円	市町村：5,500千円	その他：5,500千円)		
想定する支援事業（補助金名称、人的支援の内容、その他）	<p>国： 県：高知県産業振興推進総合支援事業 人的支援： その他：</p>				
備考					

有望素材シート（28年度）（案）

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	香南市	素材名	三宝山、シャトー三宝
		関連素材	周辺観光施設

現状・課題	<p><現状></p> <p>かつて、遊園地や西洋の古城風施設「シャトー三宝」が、観光名所として賑わっていた三宝山は、今なお、市民や県民にとって思い出深いシンボルの存在となっており、三宝山の活用を望む声が絶えないことから、これまで市では民間企業の誘致を試みたり、市民の代表による検討会などを行ってきたが、具体的な活用方法を見出すには至らなかった。</p> <p>平成25年に地権者である高知新聞社及び県・市で、三宝山の今後の活用策として、一定の方向性（観光拠点として、市が持続可能で採算性のある施設としての基本構想を作り、事業をしてもらう企業や企業体に売り込むこと）が確認された。</p> <p>そこで、市では平成26年に、県内外から夢のあるアイデアを広く募集し、そのアイデアを参考に企業から提案を募って、平成26年度に「三宝山観光拠点化基本構想」を作成した。平成27年度にはこの構想案を磨き上げ、具現化するために、専門家を交えた「三宝山観光拠点化基本構想磨き上げ検討委員会」を立ち上げて、現在検討を重ねているところである。</p>
	<p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「シャトー三宝」の具体的な活用案を示すため、必須となる耐震診断の実施 ・事業実施主体の確保及び運営方法 ・周辺の観光施設との連携による体験型観光エリアの形成
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・「香南市三宝山観光拠点化基本構想磨き上げ検討委員会」でこれまで検討してきた内容を基に、事業実施主体となる企業等との条件面の整理や経費（支援）の検討を行う。 ・新たに「香南市三宝山観光拠点化基本計画策定委員会」を立ち上げ、実際の事業実施主体を構成員として、運営体制や整備などについての整理を行う。

「有望素材」を活かした具体的な取り組み（案）

『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	三宝山プロジェクト
	関係市町村名	香南市

事業の概要	香南市のシンボルである三宝山を観光拠点施設として整備するとともに、近隣の観光施設等と連携している様々な楽しみ方ができる体験観光エリアを作ることにより、県内外からの観光客の増加を目指す。					
事業主体等	香南市、民間事業者（予定） 【関係機関】 高知県、（株）高知新聞社、（株）高知販売オリコミ社					
主な内容・スケジュール	取組手順	事業実施【H28】	1年後【H29】	2年後【H30】	3年後【H31】	4年後【H32以降】
	施設整備	基本計画の策定 → 実施設計	施設整備	開業	運営開始	
	委員会の開催	「香南市三宝山基本計画策定委員会」で協議 →				
周辺施設との連携	既存施設間での協働体制の強化、連携した取組の推進 →			三宝山を核とした体験型観光エリアでの取組の推進 →		
指標・目標	項目	事業実施【H28】	1年後【H29】	2年後【H30】	3年後【H31】	4年後【H32以降】
	観光客入込数	0	0	0	20万人	20万人
	【設定根拠】	【推計の考え方】 体験型観光の目玉となる施設整備を行うことにより、「のいち動物公園」（年間15万人）や「龍河洞」（年間10万人）をはじめとする周辺観光施設からも多くの集客を図り、物部川流域エリアでもトップクラスの観光入込数20万人を目指す。				
	【考え方】					
総事業費等	総事業費（内訳 国： 県： 市町村： その他：）	千円（うち28年度 千円）				
	想定する支援事業（補助金名称、人的支援の内容、その他）	国： 県：高知県観光拠点等整備事業費補助金 人的支援：				
	その他：					
備考						